

北海道ニセコ農業高等学校の行動計画(グローバル・アグリハイスクール宣言)

全国の農業高校の行動計画		学校において令和2年度に重点化する取組及び具体的方策		
「5つの基本方針」	「10の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	目標達成期間	具体的方策
I グローバル教育 で人材を育てる 学校	①「生徒一人一人を一層成長させる」教育を行います。	(1)農業クラブ3大事業への積極的な取り組みを促す。 (2)個に応じたキャリア教育の充実を図る。 (3)資格取得の充実	A	(1)各行事に向け、学習会を充実させる。 (2)地元産業現場と連携したキャリア教育を展開する。 (3)各教科における資格取得を推進する。
	②「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います。	(1)ニセコ町が取り組むSDGs 未来都市としての活動を学ぶ。 (2)マレーシアへの見学旅行 (3)YTLホテルスクールズとの交流事業	A	(1)SDGs の活動を農業クラブから校内、町内へ発信する。自分たちが取り組める活動を学ぶ。 (2)マレーシアでの農業分野・観光分野の視察学習を充実させる。 (3)見学旅行先、また帰国後の交流会を充実させる。
II 地域社会・産業に 寄与する学校	③「地域農業の生産を支える」教育を行います。	(1)地場産業を支える取り組み (2)地域に定着させる新しい農産物の開拓	B	(1)地域農家、地域ホテルでの実習を実施する。 (2)地域に提供する京野菜の栽培を実践する。
	④「地域の農業関連産業に寄与する」教育を行います。	(1)有機栽培ワインブドウ農家での視察実習と農業実習 (2)地元6次産業との連携	A	(1)年間2～4回の農業実習への参加と視察実習を行い、ニセコにおける有機果樹栽培を学ぶ。 (2)国内外の多くの観光客のニーズに応える農産物を提供する。
III 地球環境を守り 創造する学校	⑤「地球環境を守り創造する」教育を行います。	(1)小樽開発局と連携した「環境に配慮した農地開発」の学習により、持続可能で創造的な農業を学ぶ。 (2)エネルギー教育の充実	B	(1)1年生を対象に2回の特別講義を実施する。農地開発の現場視察と、環境に配慮した農地開発についての講義を行う。 (2)町役場企画環境係と連携し、エネルギー教育を実施する。
	⑥「食農」教育を推進します。	(1)ニセコ町教育委員会・CS委員会と連携した食育交流・菜園交流 (2)国際交流員との食文化交流	A	(1)地域の小中学校との交流学习を実施する。 (2)中国・アメリカ・ヨーロッパからの国際交流員の方たちとの食文化交流を実施する。
IV 地域交流の拠点 となる学校	⑦「地域資源を活用する」教育を行います。	(1)町花を活用したPJ活動の実施で地域との繋がりを深める。 (2)有島武郎と地域の農業の歴史について、さらに地域に根付く「相互扶助」の精神について学ぶ。	B	(1)町花ラベンダーを活用したPJ活動を実践する。 (2)ニセコにおける有島武郎の功績と今も受け継がれる「相互扶助」の精神を学ぶ。
	⑧「地域交流の拠点となる」教育を行います。	(1)⑥「食農」教育を中心に地域交流の場をつくる。	A	(1)⑥「食農」教育を中心に生徒が参加型の食文化交流会を実施する。
V 地域防災を推進 する学校	⑨機関・団体と連携した」教育を行います。	(1)町役場、小樽開発局、農業改良普及センター、ニセコミルク工房、地域農家、酪農学園大学、札幌国際大学、八紘学園などと連携した授業の実施	A	(1)エネルギー教育、農地開発と地域環境、土壌分析、地域農家実習、大学視察、大学での農業実習体験など、特別授業で実施する。
	⑩「地域防災を推進する」教育を行います	(1)実習に関わる安全教育の徹底 (2)実習中の災害への備え	A	(1)実習服・帽子・長靴・軍手などの着用と怪我・熱中症対策を徹底する。 (2)農場実習中の地震・原発事故への備えを徹底する。